

クマガクボラ

Vol.3

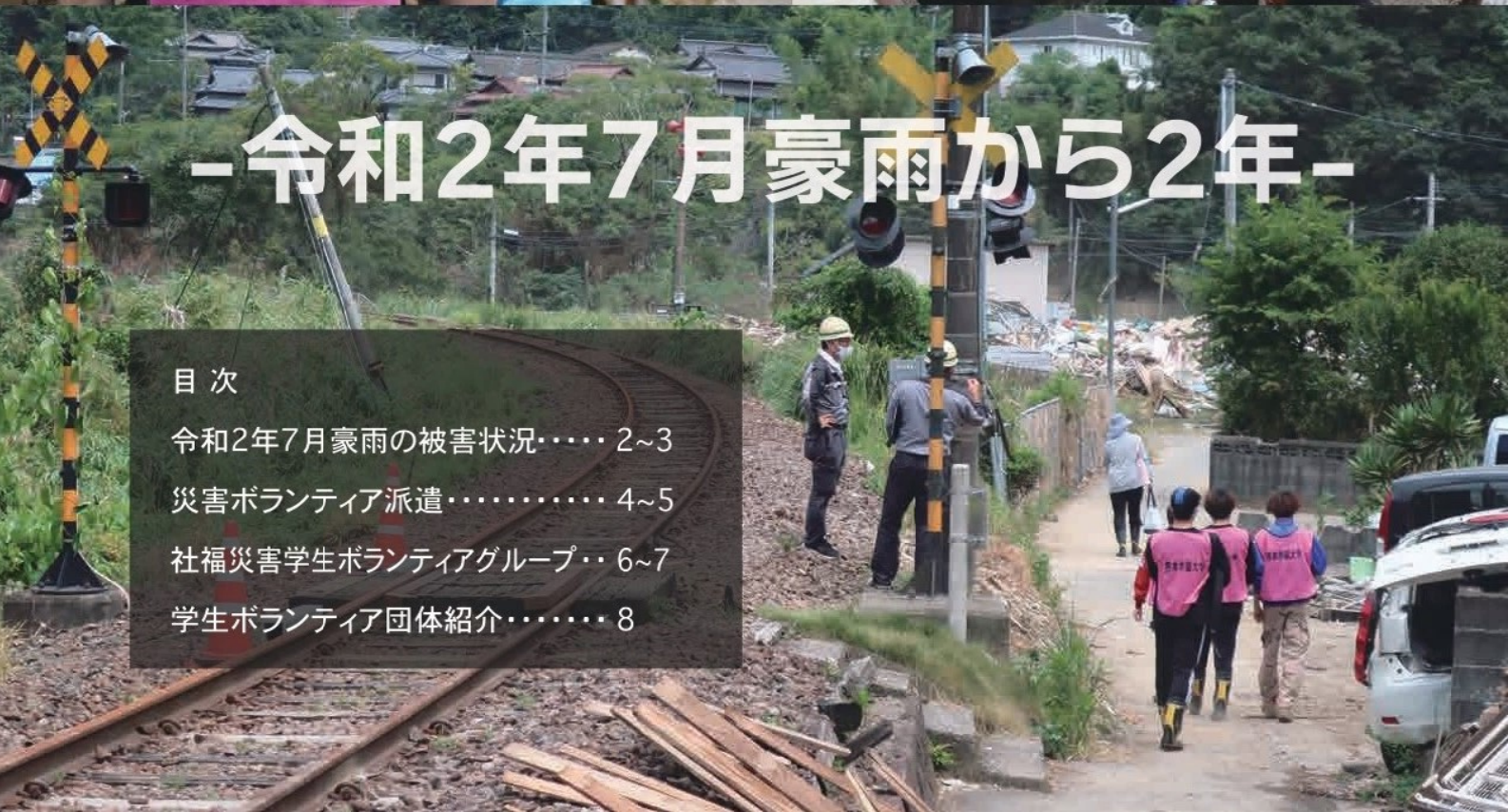
2022年●月●日発行



-令和2年7月豪雨から2年-

目次

- 令和2年7月豪雨の被害状況..... 2~3
- 災害ボランティア派遣..... 4~5
- 社福災害学生ボランティアグループ.. 6~7
- 学生ボランティア団体紹介..... 8



219

球泉洞

穏やかに過ごしていた

熊本豪



渡駅

球磨村総合運動公園
さくらドーム

球磨村

万江川

球磨川

219

令和2年7月4日
私たちの生活を襲った豪雨災害の概要

2020年7月3日夜から4日朝にかけて県南部を中心に記録的な大雨が降った。線状降水帯の長期間にわたる停滞(3日23時7月4日朝方にかけての12時間降水量は県南9地点(山江・一勝地・人吉・上・多良木・湯前横谷、田浦、水俣、牛深)で観測史上1位) 気象庁は県内で初めて「大雨特別警報」を発表した。広範囲に降った大量の雨が球磨川等に流れ込み、県南の複数の河川で氾濫する 県北地域でも川の増水、土砂崩れなどを引き起こした。熊本地方気象台などによると、停滞した梅雨前線に暖かく湿った空気が流れ込

【一般被害】

球磨川流域における犠牲者数は50名にのぼりました。また、浸水や家屋倒壊などで約7,400戸(棟)が被害を受けたほか、7月4日昼

【河川被害】

令和2年7月豪雨により、6地点の水位観測所で氾濫危険水位を超過し、球磨川本川の34地点で氾濫が発生しました。堤防決壊や

【土砂被害】

球磨川流域の2市5町5村に土砂災害警戒情報が発表され、人家の全半壊や損壊のほか、特に芦北町では土砂の崩壊による複数の

【道路被害】

国道219号など球磨川流域の沿川道路では7月4日以降、土砂流出や法面崩落、路肩崩壊、道路損壊、橋梁の流失などが発生しま

【その他、重要インフラの被害等】

鉄道橋梁の流失や線路冠水が相次ぎ、JR九州肥薩線、肥薩おれんじ鉄道、くま川鉄道湯前線が一時、運転見合わせや不通が続いてい

私たちの生活を奪った 雨災害



頃から4日10時頃までの11時間)により、1日で7月約1か月分の降水量となった。
位を記録。人吉市や球磨村、八代市坂本町など各地で球磨川や支流が氾濫し、芦北町や津奈木町でも土砂崩れが多発。
るとともに、県南・天草で土砂崩れ等を引き起こした。さらに、7月6日から8日未明にかけての断続的な非常に激しい雨により、
込んだことに加え、大気中の水蒸気量が多かったのが要因とみられる。

時点で約7,800戸が停電しました。電話やインターネットの回線も断線し、住民への情報伝達や気象情報の収集等に支障ができました。

護岸欠損等による浸水被害が広がったほか、17橋梁も被災・流失しました。

の犠牲者が出るなど、深刻な土砂災害が発生しました。

ました。河川氾濫危険水位の超過による全面通行止も頻発し、一時孤立した集落もありました。

る路線があります。また八代港に大量の漂流物が流入するなど、重要インフラにも被害がおよびました。

災害ボランティア派遣



▲2020.07.27
人吉市上薩摩瀬



▲2020.08.09
八代市藤本地区
▼2020.08.01
人吉市下薩摩瀬



▲2020.08.25
八代市坂本地区



▲2020.09.20
球磨村渡地区
▼2020.09.04
芦北町白石地区



▲2020.08.30
八代市下片岩地区



▲2020.07.25 人吉市下薩摩瀬



2020年

7月

8月

9月

私がボランティア活動に取り組むことになったきっかけは、熊本豪雨災害をニュースで見て、自分がボランティア活動に参加することで、少しでも被災地の復興に貢献できるのではないかと考えたことです。私はボランティアを通して、自分が無力のように思えても、実際に誰かの役に立つことができるということを学びました。特に、清掃を行った家の方から「ありがとう」と感謝の言葉もらった時に、自分も役に立つことができたんだと嬉しく思ったと同時に今後も被災地に貢献したいと思い、毎週ボランティア活動に参加するようになりました。被災地を自分の目で見た時、思っていた以上に震災の恐怖を実感し、「復興にはどのくらい時間がかかるのだろう」と思った時もありましたが毎週土砂のかき出しや家屋の清掃等に取り組むことで、少しずつ被災前の姿に戻っていく様子を見ることができ、達成感が得られたと同時に喜びを感じました。(商学科4年:稲実 尚哉)

▼2020.09.05 芦北町告地区



▼2020.09.12 球磨村渡地区





▲2020.10.10
球磨村渡・一勝地

▼2020.10.03
球磨村渡地区



▲2020.11.14
球磨村一勝地

▼2020.11.07
球磨村神瀬地区



▲2021.03.21 球磨村神瀬地区

▼2020.12.13 球磨村神瀬地区



12月~

【活動実績】

- 2020.07.25
人吉市下薩摩瀬町 (泥出し、床剥がし): 17名
- 2020.07.27
人吉市上薩摩瀬町 (泥出し、家財出し): 22名
- 2020.08.01
人吉市下薩摩瀬町 (泥出し、床剥がし): 17名
- 2020.08.09
八代市藤本地区 (家財出し、分別など): 11名
- 2020.08.25
八代市坂本地区 (泥出し、床板の洗浄): 15名
- 2020.08.30
八代市下片岩地区 (泥出し): 8名
- 2020.09.04
芦北町白石地区 (壁剥がし、泥出し): 11名
- 2020.09.05
芦北町告地区 (泥出し、応援メッセージ): 8名
- 2020.09.12
球磨村渡地区 (泥出し): 11名
- 2020.09.20
球磨村渡地区 (ブラッシング): 10名
- 2020.09.27
球磨村渡地区 (泥出し): 13名
- 2022.10.03
球磨村渡地区 (壁剥がし): 11名
- 2020.10.10
球磨村渡・一勝地 (泥出し): 19名
- 2020.10.17
球磨村渡地区 (泥出し、洗浄): 10名
- 2020.10.24
球磨村渡・一勝地 (カビ取り、ゴミ出し): 11名
- 2020.10.31
球磨村渡地区 (泥だし): 16名
- 2020.11.07
球磨村神瀬地区 (拭き消毒): 8名
- 2020.11.14
球磨村神瀬地区 (ブラッシング): 9名
- 2020.11.29
球磨村神瀬地区 (泥出し): 8名
- 2020.12.13
球磨村神瀬地区 (清掃): 6名
- 2021.03.21
球磨村神瀬地区 (泥出し): 9名

11月

10月

▼2020.11.29
球磨村神瀬地区



▲2020.10.17
球磨村渡地区

▼2020.10.24
球磨村渡・一勝地



社福災害学生ボランティアグループ



活動を行っている学生の声

▶ ボランティアグループの活動を通して、地域の在り方や地域の現状を学ぶだけでなく、助け合いや思いやりの心等の道徳的感性の大切さなど人と関わる上で重要なことを学びました。特に熊本豪雨後のボランティア活動では、地域住民の方やボランティア団体の方などと一緒に復興に向けて取り組んだことが印象的です。当たり前の生活ができない中で、みんなで被災した家を清掃して、協力し合い、助け合うことで達成感であったり、日々の感謝の思いが感じられ、現場でしか味わえない感触を体験することが出来た。この学びを活かし、たくさんの人と関わり、学びを深めていきたいと思います。

(社会福祉学部第一部社会福祉学科 3年 岡崎明日花)

▶ 私は現在3年生ですが、豪雨災害が起きた2年前の七月から活動をさせていただきました。初めは家から泥を出す作業やニーズ調査を行いました。途中から被災者の方の「つながり」の部分のお手伝いに入るようになりました。災害学生ボランティアグループでは、つながるカフェを行い仮設住宅での集いの場を作りました。何回も参加するうちに顔を覚えてもらったりコミュニケーションの方法がわかるようになったりととても貴重な経験になりました。

(社会福祉学部第一部社会福祉学科 3年 大隈沙希)

▶ 令和2年7月豪雨災害では、故郷人吉市が被災し地元の復興に少しでも力になればという想いで支援活動を続けています。自分の地元は災害と無縁だろうという根拠のない考えを抱いていた中の豪雨災害でした。被災地での活動では、ソーシャルワークの学びを活かして活動していますが、それ以上に多くの学びを得ることができています。令和2年7月豪雨災害は新型コロナウイルス感染症の懸念から多くの壁がありました。「出来ないからやらない」ではなく「どうやったら出来るのか」を試行錯誤しながら活動を継続してきました。早くも2年という月日が流れようとしており、被災地の状況も刻々と変化してきているように感じます。私自身も一ボランティアとして今後も被災地の復興に携わり故郷の将来に寄り添い続けていきたいと思っています。私たちが活動を継続できているのも多くの方々のお力添えあってこそなことだと思っております。この場をお借りして御礼申し上げます。

(社福災害学生ボランティアグループ代表 山北翔大)

家屋作業

障がいをお持ちの方や高齢者など支援が遅れている世帯を医療機関と連携し支援に入りました。日頃学んでいるソーシャルワークの知識を活かすとともに、多くのNPO等の皆さまにサポートをしてもらいながら安全第一に家屋作業を行います。



訪問活動

発災直後からパック状の野菜スープを配りながら地域を周り、訪問活動を行いました。訪問を通して新たなニーズの把握を行い支援を継続します。現在は建設型仮設住宅や個別の訪問活動も継続し顔の見える関係を構築しています。



つながるカフェ

コロナの影響から仮設住宅内はバラバラでした。コミュニティ形成・強化を目的とした「つながるカフェ」を10月から継続しています。スタート当初は地元の校区社会福祉協議会の皆さまのサポートを受け、感染対策として屋外で開催していました。コロナ禍でも工夫をすれば出来るということ学ぶ事ができました。



つながる広場

NPOと連携し、みなし仮設の交流イベントも行っています。外からは見えづらく、みなし仮設を利用されている方々はモノも情報も来ず支援が行き渡らないことが課題になっています。つながる広場では元々住んでいた地域の方々との再会や各種相談ブースを設け、支援者とつながる場にもなっています。



伝える活動

県外ボランティアの制限があった中、県外では被災地の現状が行き渡らずメディアで取り上げられる事も少なくなっていました。一支援者としてシンポジウムや他大学の講義、新聞やテレビを通して被災地・被災者の現状を伝える活動も積極的に行っています。



(社福災害学生ボランティアグループ代表 山北翔大)

<シンポジウム登壇>

- ・兵庫県立大学大学院減災復興政策研究所遠隔フィールドワーク:活動報告
- ・神戸学院大学 講義「社会防災調査」「災害復興研究論」:ゲストスピーチ
- ・名古屋学院大学 講義「まちづくり学/減災福祉まちづくり学」:ゲストスピーチ
- ・東北学院大学 大学間連携災害ボランティアシンポジウム「ポストコロナにおける災害ボランティアのあり方-東日本大震災から10年、新たな時代にわたしたちが目指すもの-」:パネリスト登壇(震災学 Vol.15掲載)
- ・関西学院大学 災害復興制度研究所2021年復興・減災フォーラム全国被災地交流集会「円卓会議」:登壇
- ・関西学院大学「コロナ禍と防災フォーラム」:パネリスト登壇
- ・和歌山大学 令和3年度防災・日本再生シンポジウム:パネリスト登壇
- ・関西学院大学 災害復興制度研究所2022年復興・減災フォーラム全国被災地交流集会「円卓会議」:登壇

学生ボランティア団体紹介

社福災害学生ボランティアグループ

社福災害学生ボランティアグループは、社会福祉学部の学生を中心に構成され、令和2年7月豪雨災害で被害を受けた人吉市を中心に活動しています。家屋復旧作業から仮設住宅の交流会など多岐にわたる活動を行なっています。コロナ禍での活動ではたくさんの壁と衝突しましたが、「やれないから、やらない」ではなく「どうしたらできるか」を試行錯誤しながら活動を行なっています。

(代表:第一部社会福祉学科 山北翔大)

おひさまカフェ

おひさまカフェは、熊本地震で被災された方々や子どもたちへの居場所づくりと地域の方々との繋がりの場づくりを目的としたカフェ活動(サロン活動)を行っています。カフェでは飲み物とお菓子を提供して、カフェに来られた方々に学生やご友人、地域の方々との楽しい時間を楽しんでいただくことを大切にしています。現在は益城町の安永地区の公民館をお借りして活動をしています。カフェに来られた方が「今日は来て良かった」と笑顔になれるような居場所や時間を提供していきます。

(代表:第一部社会福祉学科 吉山凜)

Libero

ボランティア団体liberoは、毎週土曜日大学の多目的グラウンドで活動しています。新型コロナウイルスの影響により外出自粛を余儀なくされている状況の中でストレスや不安を抱えている子供や保護者に対し、スポーツを通して、ストレス発散の機会や子どもたちの運動能力向上に取り組む地域貢献を目的とし活動しています。サッカーやドッチボール、鬼ごっこなど子供たちが楽しめることや親子で参加できるように様々なメニューを取り入れて活動を継続しています。

(代表:福祉環境学科 小林洸太)

Laugh Connect

ラフコネクトは益城町にある広崎第二団地にて、子どもたちの学習・見守り支援や住民の憩いの場づくりを行っている団体です。これまで西原村の建設型仮設住宅で活動を続けてきましたが、新型コロナウイルス流行の影響を受け、活動を一時中断していました。今回新たにニーズの把握を行い益城町の災害公営住宅で活動を再開することにしました。また住民の方々との協力し合いながら地域の活性化を目指すとともにコミュニティ強化のサポートをしていこうと思います。

(代表:ライフウェルネス学科 八田祐輝)

熊本地震の発生後2017年に開設されたボランティアセンターは災害ボランティアを活動の中心としています。2020年7月に発生した人吉・球磨地方を中心とした豪雨災害の際には、コロナ禍にもかかわらず、多くの学生及び教職員が泥出しなどの活動に積極的に従事しました。また、コロナ禍により活動を自粛していた学生の活動も徐々に再開されています。多くの学生の皆さんにも災害ボランティア活動を経験していただきたいと思います。

(甲斐好文副センター長)

●お問合せ先

熊本学園大学ボランティアセンター

〒862-8680 熊本市中央区大江2丁目5番1号

TEL 096-364-7161

受付時間 平日10:00~17:00

編集・発行：熊本学園大学ボランティアセンター

〒862-8680 熊本市中央区大江2丁目5番1号

TEL:096-364-7161 FAX:096-362-0209

E-Mail:kumavol@kumagaku.ac.jp

協力：特定非営利活動法人バルビー